



Good News for Japan **とぎのこえ**

平成二十七年五月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊

毎月一日・十五日発行

ホッとできる場所

徳永由美



「トイレこつちだからね。いつでも遠慮しないで。」

もうずいぶん昔のことになりましたが、婚約式を終えて、初めて夫の実家を訪ねた時のことです。かしこまって座った私に、夫の父親がわざわざ立ってトイレに通じる引き戸を教えてくださいました。ここは、あなたが遠慮なくトイレに行ける場所、これからはあなたの家ですよ、という意味の温かい言葉でした。

夫の実家は熊本です。久しぶりに帰った彼は、あつという間に熊本弁の世界の人になってしまいました。熊本弁初心者の方は、言葉の通じない世界に戸惑い、会話に加わることも、返事もろくにできずにいました。一人呆然とする私を、彼の家族は「おとなしい人」と好意的に受け止めてくれていたようです。

結婚後、帰省したり、子どもが生まれ、義母が手伝いに来てくれたりするたび、家族の中でリラックスする経験、親子の気兼ねなさや配慮を教えてもらいました。私が熊本弁を完全には理解できなくても、

「わかつとらっさんね(わかっていないね)」と、笑顔で済ませてくれ、気を遣わせない配慮が心地

よい、幸せな場所を知ることができました。

最近、子どもたちの中に「外弁慶」という現象が見られるそうです。外で威勢良くても、家の中ではおとなしい子どものことです。

「外弁慶」の子どもの家は、親の顔をうかがい、おとなしく、いい子にしていなければならず、そのストレスから、学校や保育園、幼稚園で、大胆に我がままな行動をしようとする。家では全く問題がないので、外での手に負えない行動を親に相談しても、信じてもらえないことがあるというのです。

喜んだり、悲しんだり、困ったりしながら毎日新しいことを経験し、吸収しながら成長する子どもたち。誰もが、彼らを愛情いっぱい受け止めることのできる家庭、親が子どもの健全な成長を願い、子どもは親に感謝できる家庭を、と願うでしょう。しかし、現実には、仕事の忙しさ、代わり手のない育児のストレスなどで、親子も夫婦もお互いの話を聞くゆとりのな

い日常があります。疲れや不機嫌からくる緊張の糸が家中に張り巡らされ、いつ切れるかわからないような状態になっていないでしょうか。家族であっても条件付きの愛情だったり、厳しい現実の中で限界を感じたりと、家庭がホッとできる場所になっていないのです。親にも、子どもにもホッとできる場所、愛情を注がれ受け入れてもらえる所が必要ではないでしょうか。

あなたには、ホッとできる場所がありますか？ 聖書に、次のような神様の言葉があります。

「わたしは、とこしえの愛をもつてあなたを愛し変わることもなく慈しみを注ぐ。」(エレミヤ書31章3節)

教会は、この神様の愛によって存在する場所です。気を遣わせない、配慮ある、心地良い場所です。そして、神様の愛は、皆さんの心の中にもホッとできる場所をつくり出してくださいませ。皆さんも、神様の大きな愛によって、ホッとできる場所をもつことができますように。(救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈信仰の体験談〉

主の恵みに 感謝



飯島紀子

教会に導かれて

私が初めて教会の礼拝に出席したのは、今から四十九年前（一九六六年）、ロンドンの郊外に住んでいた時です。お隣りの方に連れられて、夕礼拝に出席させていただきました。道の途中、三人ほどの救世軍の方たちが楽器を奏でていました。

〈誰も聞いていないのに、あの人たちは何をしているのだろう〉と不思議に思ったことを、今も鮮明に覚えています。

日本に帰国して、千葉県市川市に住みました。しばらくして、小学校に入学した長女を、ご近所のお嬢さんが近くの教会の日曜学校に連れて行ってくださいました。そのうち下の息子たち二人も一緒に日曜学校に行くようになり、私もその教会の礼拝に出るようになりました。子育ての最中でもあり、私にもホッとする時間が与えられたと思いい、毎週出席するようになりました。

一年ほど経ったある日、牧師先生に

「洗礼を受けませんか」と声をかけられました。帰宅して、主人に話しますと、

「夫婦別々の教会で洗礼を受けるバカがあるか」と言われてしまいました。

主人は、両親と共に、東京・目白の池の上キリスト教会で洗礼を受けていたのです。主人は、毎週、松戸に住んでいた両親と一緒にその教会の礼拝に行っていました。

クリスマスチャンに

私が初めて池の上キリスト教会に行った日、第二回目の「城北アシラム」

（教派を超えてもたれるキリスト教の集会）がそこでおこなわれていました。当時の牧師の山根先生ご夫妻がとても喜んで迎えてくださいました。その時のメッセージは海外から来られた牧師さんがされたのですが、内容については覚えていません。けれどもそれ以来、子どもたちを連れて、池の上キリスト教会の礼拝に出席するようになりました。

当時、私たちは、牧師夫人の恵代夫人を「教会のお母さん」と呼びびしていました。本当の親以上に教会員一人ひとりに対して愛の配慮をし、誰に対しても分け隔てなく接してくださいました。私が受洗を

決意したのは、〈私も教会のお母さんのようにになりたい〉との思いからでした。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほかに、世を愛された。それは、御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

（ヨハネの福音書3章16節）
この「世」という所に、飯島紀子という私自身の名を入れて読み返しました。そして、この聖書の言葉をいただいで、一九七四年のペリテコステ（イエスの弟子たち一人ひとりに聖霊が降臨したことを記念する日）に、洗礼を受けました。

私のために一番良いことをしてくださっている、と信じていることができるようになったからです。

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のために、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

（ローマ人への手紙8章28節）
子どもたちも三人一緒に洗礼を受けさせていただき、「親がしっかり、責任をもつて育てるように」

とのご指導を受けました。子どもたちは三人とも、それぞれ数々の試練の中を乗り越えましたが、いつも神様のお守りのうちに一つ一つ乗り越えさせていただき、幸いなクリスマスチャンホームを築かせていただいております。心より感謝しています。

家庭集会

一九八一年二月、「教会のお母さん」恵代夫人のご指導によって、当時住んでいた松戸の家で、家庭集会



山根牧師ご夫妻

「ベタニヤ会」をスタートさせました。ベタニヤというのは聖書に出てくる村の名前です。ここに住んでいるラザロという人が、神の御子イエス様によって死からよみがえらされました。その時、イエス様はこのように言われました。

「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことがありません。このことを信じますか。」

(ヨハネの福音書11章25、26節) 家庭集会で、このことを信じる方が起こされるように、との願いから、「ベタニヤ会」と名づけたのです。

この家庭集会は、恵代夫人の召天後も、代々の牧師ご夫妻がおいでくださって月一回、土曜日に開かせていただいています。この「ベタニヤ会」に新しく加わる方が何人も与えられ、また私の両親も導かれて洗礼を受けさせていただきました。毎年十二月には、近所の子どもたちを招き、楽しいクリスマス会も開催しています。

祈りの課題

一九八三年十月十七日、三鷹の義母の応接間で、第一回の祈祷会がおこなわれました。それは、山崎製パンの創業者であった社主の義父を、監査役が訴えるという前代未聞の裁判が始まったからでした。義父は体調を崩してしまいました。義母と相談して教会のお母さんに電話をしたところ、ご夫妻で家に来てくださって、この祈祷会となりました。

- 一 社主の健康回復
 - 二 裁判の早期解決
 - 三 飯島家の主にある一致
- この三つの祈祷課題をもつてのスタートでした。

この祈りの課題は、一つ一つ、見事に叶えられていきました。社主の健康回復のためには、良い医師が与えられ、良い病院に入院することができました。そして、裁判は和解をもって解決し、社主と会社が基本財産を寄付して、米・麦を中心とした研究・助成活動のための、食品科学振興財団を設立することができました。この財団が、昨年三十周年の記念の時を迎えました。日本の主要食糧である

米・麦を中心とした研究活動のための助成を長年にわたっておこなってきた、全国の研究者の方々に大変喜ばれています。

また、飯島家の一致については、三鷹の近隣の方や飯島家の親族が次々にクリスチャンになり、月一回第一木曜日午後一時から、「一麦会」と名づけられた集会がおこなわれるようになりました。

新会堂建築

話は前後しますが、一九八九年三月三十日、山崎製パンの株主総会の前夜、義父が危篤状態に陥りました。お医者様は「二日か二日が山で、一

カ月、二カ月ということはないでしょう」と言われました。そこで、社主の召される日のための準備が始まりました。主人を中心に葬儀の件、墓地の件を祈りつつ準備したのでした。幸いにも、多くの方々の祈りに支えられて、義父



池の上キリスト教会

はその年の十二月まで命を長らえることができませんでした。翌年の六月、義母から電話がありました。夢の中で、義父が家の屋根の上に立って、「杉の皮でふく、真つ赤な血でふく」と大声で叫んでいた、というのです。主人はしばらく祈り続けていましたが、

「父が、心の平安と喜びを得て感謝の心に満ち、『三鷹の家に来る者には、イエス様が私たちの罪を赦してくださいように、赦しの恵みに入れてあげよう。どうしても落ちない罪は、イエス様の真つ赤な血で洗って、真つ白にしてあげよう』と叫んでいるに違いない」と申しました。その頃、教

会では新会堂建築の必要に迫られて祈っており、この義母の夢に導かれた主人は義母と相談して、池の上キリスト教会に三鷹への移転を提案いたしました。

一九九五年十一月、義父母宅の道路に面した場所三百坪に新会堂が完成しました。以前、初代牧師の山根先生ご夫妻が

「新会堂が建て上げられるのが見える」と言われていましたが、それが実現したのです。

今年、教会は新会堂建設二十周年を迎えようとしています。神様は、「教会が命の川の流れ出る所となりますように」という私たちの祈りに応えてくださり、聖霊を豊かに注ぎ続けてくださっています。

主の恵みに感謝

現在、私は、池の上キリスト教会で信仰生活を守るとともに、教派を超えたキリスト教の集会「城北アシユ



主人と共に

※文中の聖書の言葉は、新改訳聖書からの引用です。(池の上キリスト教会所属)

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
- キリスト教についてもっと知りたいです。
- 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

- ご住所
- ご氏名

裏 この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブライス 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈バヌアツ〉サイクロン被災者支援

3月13、14日にかけて、南太平洋の島国バヌアツを襲った大型ハリケーン「バム」による被害は、深刻なものとなりました。バヌアツの島々に住む、16万6千人が影響を受けており、少なくとも11万人が、安全な飲料水を得られないでいます。



仮住まい状態のタンナ島の人々

バヌアツ政府は、国連などの協力を受けながら、支援活動を展開しています。救世軍は、世界最大の小口貨物輸送会社UPS社の協力を得て、首都ポートビラから南へ200km離れたタンナ島へ向かいました。飛行機、ボート、四輪駆動車で移動の後、ジャングルの中を5時間歩いて着いた地域には、まだ誰も支援に入っておらず、約9割の家が生活困難な状況でした。人々は洞穴などに住み、2時間かけて水源に水を汲みに行っているとのこと。救世軍は、国連WF P (世界食糧計画) や、ユニセフと共にUPS社の協力を受け、その地域に空輸による飲用水の支援を提供することを取り決めました。次の課題として、丈夫な避難施設の提供が求められています。(3月30日現在)



〈南アメリカ西部〉大雨による被災者支援

3月末、歴史的な大雨により、ペルー南部とチリ北部の町は、土砂崩れや洪水の被害を受けました。

ペルーでは少なくとも7人が死亡、65の家が破壊されています。現地の救世軍は、物資の供給と精神的なサポートによって支援しました。(写真右)



また、チリでは、世界的に有名なアタカマ砂漠でさえも洪水の被害を受けました。チリでは、17人の死亡と、30人の行方不明者が報告されています。救世軍では、3月28日に、食料・飲料水・牛乳を積んだ20トンの物資を被災地に届けました。(4月1日現在)



ペルーの人々に水を届ける

〈日本〉広島土砂災害被災地支援 (続)

3月20日、社会鍋資金から、広島土砂災害継続支援として、広島宣教協力会と共同で、可部東6丁目の方々へ花約700ポットとプランター100台をプレゼントしました。

また、3月25日には、広島市社会福祉協議会より、救世軍の広島土砂災害支援に対して感謝状をいただきました。



救世軍とは

The Salvation Army

プロテスタントのキリスト教会で、世界百二十六の国と地域で働きを進めています。

創立者はイギリスのメソジスト教会牧師だったウィリアム・ブライス。一八六五年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々の物心両面からの救いを目指して、この働きを始めました。百五十年経った今もその精神は変わらず、助けを必要としている人々のニーズに応えながら、神様の愛を伝えていきます。

日本での働きは、一八九五(明治28)年に始まりました。その当初から、刑を終えて出てきた人々の保護や職業訓練、災害被災者慰問、失業者のための職業斡旋、廃娯運動の推進、結核療養所の設立、子どもの保護などを積極的におこない、明治大正、昭和初期の社会福祉史に、先駆者としてその足跡を残しました。

今年、救世軍の創立150年、日本で救世軍の活動が開始されて120年の記念の年です。

イギリスでは…救世軍創立150周年記念万国大会を開催

7月1日(水)～5日(日) テーマ あがな 全世界を贖う限りない恵み 大会の様子はインターネットで配信されます

日本では…120周年記念行事を開催

5月3日(日)～5日(火)・120周年記念セミナー 9月20日(日)～22日(火)・全国青年大会

社会鍋募金へのご協力を感謝いたします!

昨年12月も、社会鍋募金にたくさんの方々からご協力をいただきました。心からの感謝とともに、結果をご報告いたします。

北海道地区	865,534
関東東北地区	799,060
東京・神奈川地区	14,717,506
東海地区	581,521
関西四国地区	1,565,681
中国九州地区	1,077,316
合計	19,606,618

(2015年3月31日現在)

寄付金は、各地の救世軍を通して様々な支援活動に用いさせていただきます。

母の日 アメリカに住むアンナ・ジャビーですが、教会の日曜学校教師だった亡き母の記念日に、「母の日をつくって感謝の気持ちを表しましょう」とカーネーションを配りました。彼女の母は生前、子どもたちに、母親に感謝の気持ちを表すことの大切さを教えていたからです。やがて、この考えに賛同する人が増え、一九一四年、アメリカ議会で、五月第二日曜日を母の日にすることが決まりました。現在、日付は様々ですが、世界中で祝われています。

発行所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営 電話 東京(03)三三七〇八八一 編集人 齋藤 恵子 印刷兼 代表者 勝地 次郎 発行兼 代表者 齋藤 恵子

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)